

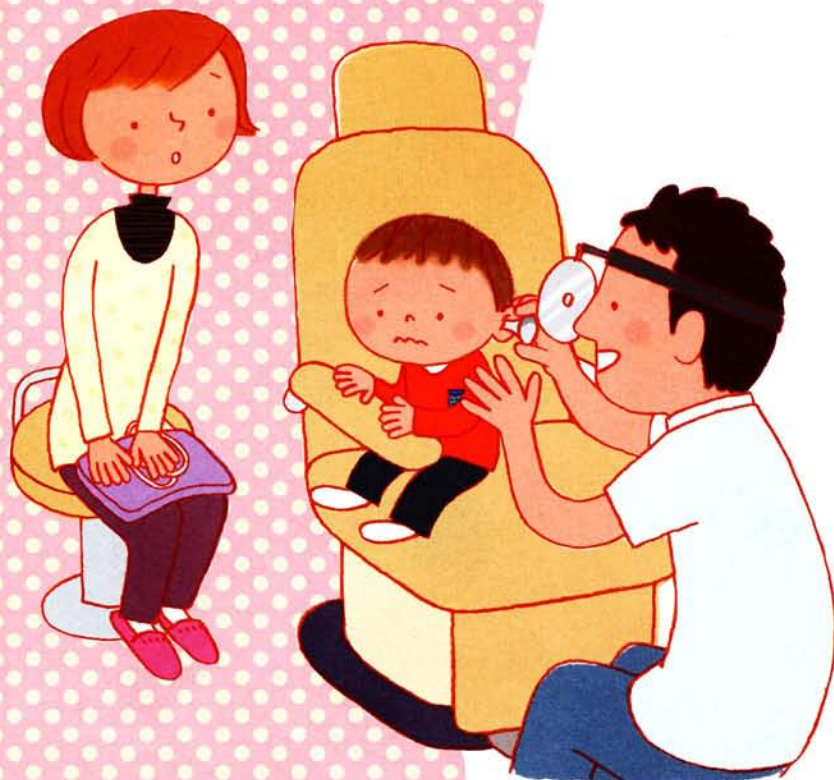


イキイキ子育て アドバイス

子どもの 中耳炎に要注意

中耳炎は、風邪によるのどや鼻の炎症が、耳にも広がって炎症を引き起こす病気。子どもが風邪をひいたあとに耳を痛がっているときは、中耳炎を疑いましょう。

監修／笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室
笠井 創先生



風邪をひいたあとに耳を痛がることがあれば、早めに耳鼻咽喉科を受診すること。中耳炎は、完全に治るまで治療を続けましょう。

風邪をひいたあとに 耳を痛がるときは注意

子どもの病気で、意外に多いのが耳のトラブル。とくに、乳幼児は鼻と耳をつなぐ「耳管」が太いため、感染が広がりやすく、中耳炎になりがちです。

中耳炎というと、ほとんどが「急性中耳炎」を指します。これは、風邪によるのどや鼻の炎症が、耳にも広がって中耳に炎症を引き起こす病気。風邪をひいたあとに、耳を痛がっている場合は要注意です。

また、耳だれや耳から血が出ているときも、すぐに耳鼻咽喉科へ連れていきましよう。早めにきちんと治療をすれば2〜3日ですぐに症状は治まりますが、中耳に分泌物が残っていることもあります。完全に治りきるまでは、しっかり治療を続けることが大切です。

この急性中耳炎をきちんと治療しておかないと、「滲出性中耳炎」に移行してしまうケースがあります。滲出性中耳炎がこわいのは、聴力の低下をまねく点。耳の聞こえが悪いといって受診する子の多くには、この滲出性中耳炎がみられます。

先生からのアドバイス

- ・風邪のあとは「急性中耳炎」になりやすい。
- ・乳幼児は鼻と耳をつなぐ「耳管」が太いため、感染が広がりやすい。
- ・耳だれや耳から血が出ているときはすぐ耳鼻咽喉科へ。
- ・早めに治療を始め、確実に治るまで薬を飲み続ける。
- ・「滲出性中耳炎」は耳の聞こえが悪くなる病気。
- ・抗生剤を服用しても治らないときは、鼓膜を切開することも。
- ・乳幼児が風邪をひいたあとには、中耳炎の発症に気をつけること。

